

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けた行動プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでまいります。

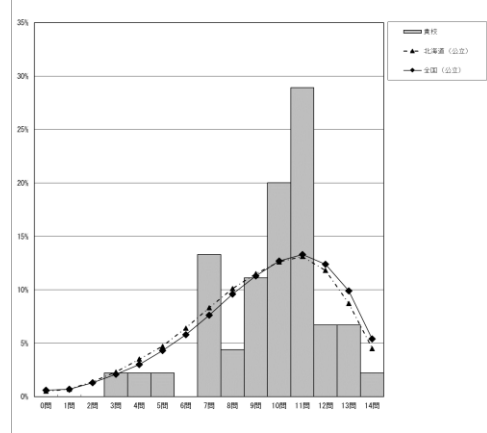
1 国語科の結果

全国の平均正答率と比較して「ほぼ同様（上位）」の結果でした。

①正答数の分布

本校の分布は、全国・北海道の分布と大きく異なり、二山型に近い分布を示しています。

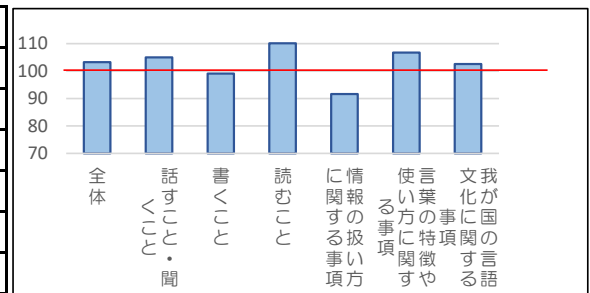
7問の層が約13.5%と、全国・北海道のカーブよりも顕著に高い割合を示しています。これは、中間層の中でも比較的低い点数帯に児童が集中していることを示します。10問の層が約20%と、全国・北海道のピーク（約13%）よりも非常に高い割合を示しています。この点は本校の強みと言えます。11問の層はさらに高く、約29%で全体の最大の山となっており、全国・北海道のピーク（約13%）を大きく上回っています。非常に優秀な層が厚いことが最大の特徴です。



②学習指導要領の内容別の平均正答率の結果

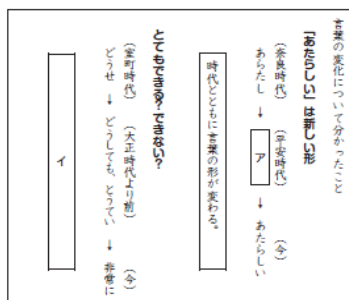
内 容	全国平均との比較
話すこと・聞くこと	高い
書くこと	ほぼ同様
読むこと	相当高い
情報の扱い方に関する事項	低い
言葉の特徴や使い方に関する事項	高い
我が国の言語文化に関する事項	ほぼ同様（上位）

全国平均を100とした場合の本校の正答率



○全国の平均正答率を上回った問題

問題番号	平均正答率（％）		問題の概要	問題の趣旨
	高台小	全国		
3三（2）	71.1	56.3	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したこと、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる
3二（1）	88.9	81.6	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる



無解答率
2.2%

無解答率
6.7%

正答例 言葉は年月とともに変化するという事になったとしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わる

（条件）

○言葉の変化について考えたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

(2)
木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件にのっとり書きましょう。

- (1) 「木村さんのメモ」の「ア」の中に入る適切な言葉を「資料2」の中から書きめましょう。
- (2) 「木村さんのメモ」の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを【資料3】を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 時代とともに言葉の意味が変わる。
 - 時代とともにものの使い方が変わる。
 - 世代によってもものの呼び方がちがう。
 - 世代によって言葉の使い方は変わらない。

あたらし

資料を読み、「あたらしい」という言葉の形が時代とともにどのように変化したのかを捉えることができる児童が多く、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることで正答を導きだせています。記述式にも関わらず全国平均正答率を上回りました。

自分の考えが伝わるように文章を書くためには、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方を工夫することに課題がみられます。山田さんは、【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、「物を包む使い方」を詳しく書いたほうがよいと考え、ここでは、「手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。」という文を、【調べたこと】の言葉や文を取り上げて、制限字数以内でまとめる力が必要となります。

③指導改善に向けて

本校児童は「情報の取り扱いに関する事項」「書くこと」が全国平均正答率よりも下回っており、指導を進めていく必要があります。2つの力を育てるために以下のような指導に取り組みます。

伝わる文章を書くための「めあて」と「技術」の訓練

課題である「目的に応じた書き方の工夫（短く書く・詳しく書く）」と「事実と意見の区別」を明確に表現するため、以下の指導を全校で進めます。

- 1. 伝える相手と場面に合わせた「表現の切り替え」練習
同じテーマについて、読み手と伝える場面を具体的に想定し、書き方を切り替える練習をします。「誰に」「何を」「どう伝えたいか」という目的意識（書き手の意図）と、使う言葉や文章の長さ（表現）が一致しているかを意識させます。
- 2. 大切な情報を要約する訓練
たくさんの情報の中から、設定された目的（例：チラシで興味を持たせる）に一番合う、一番大切な情報だけを選び取らせます。選んだ情報を、句読点や接続の言葉を工夫しながら、決められた字数の中で最も効果的に伝わる一つの文に凝縮する（統合・要約する）練習を繰り返し行います。
- 3. 「何を書いたか」の見える化と「自分で確かめる」習慣
書いた文章をチェックする際、「客観的な事実」と「自分の感想・意見」を色分け（例：事実は青、意見は赤）して、違いをはっきり意識させます。自分で書いた文章の「情報量が多すぎないか、少なすぎないか」「当初の目的に合っているか」「伝えるべきことがきちんと書かれているか」などを自分で確かめる習慣をつけさせます。

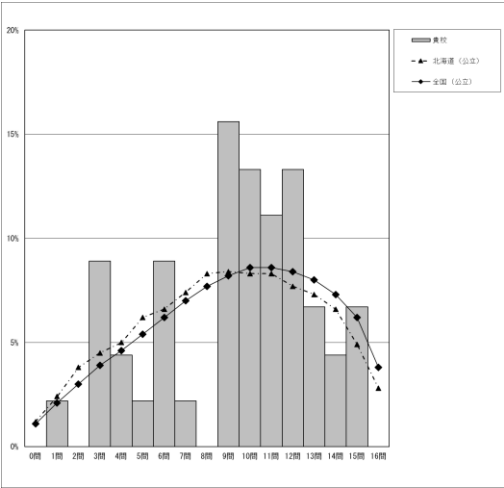
2 算数科の結果

全国の平均正答率と比較してほぼ同様の結果でした。

①正答数の分布

本校の分布は、全国・北海道の平均と比べて非常に大きなばらつきがあり、両極端に分布する傾向（二極化）が顕著です。3問・6問の層が、それぞれ約9%と、全国・北海道の平均（約4%～6%）を大きく上回っています。特に3問と6問に高い山があることで、基礎的な内容の定着に課題を持つ層が一定数存在することがわかります。

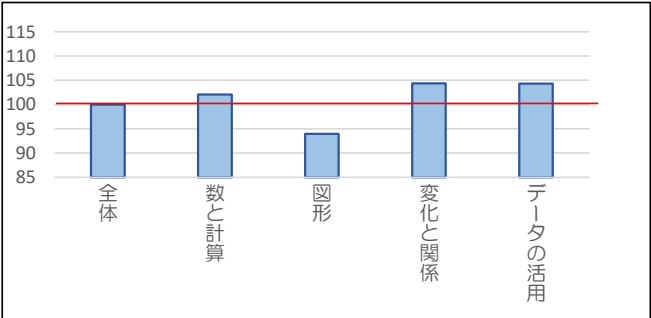
8問の層は約1%と非常に低く、全国・北海道の平均（約8%）から大きく落ち込んでいます。しかし、9問・10問・12問の層は、いずれも全国・北海道のピーク（約9%）を上回る約13%～15%の高い割合を示しています。特に9問と10問が非常に高いのは本校の強みです。14問以上の層は、全国・北海道の分布とほぼ同じか、わずかに低い割合で分布しています。非常に突出した最高得点層は多くありませんが、中間から高位にかけての層（9問～13問）が全体を大きく押し上げています。



②学習指導要領の領域別の平均正答率の結果

領 域	全国平均との比較
数と計算	ほぼ同様（上位）
図形	低い
変化と関係	やや高い
データの活用	やや高い

全国平均を100とした場合の本校の正答率



○全国の平均正答率を上回った問題

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	問題の趣旨
	高台小	全国		
1 (3)	82.2	71.6	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる
3 (1)	84.4	71.5	0.4 + 0.05 について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる

(3) あいりさんたちは、指定野菜のだいこんについても調べています。

3



だいこんは、冬にとれる野菜だと思っていましたが、スーパーマーケットには一年中売られています。



だいこんは出荷される時期によって3つに区別されています。それぞれの出荷量は、どのようになっているのでしょうか。

れんさんは、下の表を見つけました。

だいこんの出荷量 (2022年) (t)				
都道府県	春だいこん (4月～6月に出荷)	夏だいこん (7月～9月に出荷)	秋冬だいこん (10月～3月に出荷)	合計
㊸	51300	348	82900	134548
㊹	9240	91400	20800	121440
㊺	18900	50300	28700	97900
㊻	12600	477	70100	83177
その他	84460	44875	420200	549535
合計	176500	187400	622700	986600

※ ㊸、㊹、㊺、㊻は都道府県名です。

(作物統計調査による。)



「春だいこん」「夏だいこん」「秋冬だいこん」の中で、「夏だいこん」がいちばん多い都道府県がありますね。

だいこんの出荷量について、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」が多い都道府県を、上の表の ㊸ から ㊻ までの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

い・う

ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



0.4 は 0.1 の 4 個分、0.3 は 0.1 の 3 個分です。
0.1 を ㊸ として下の図のように表します。

0.4
㊸ ㊸ ㊸ ㊸
0.1 が 4 個

0.3
㊸ ㊸ ㊸
0.1 が 3 個

$0.4 + 0.3$ の計算は、0.1 をもとにするので、4 + 3 を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4 は ㊸ の 40 個分、0.05 は ㊸ の 5 個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、㊸ をもとにすると、40 + 5 を使って考えることができます。

上の ㊸ にはすべて同じ数が入ります。㊸ に入る数を書きましょう。

無解答率
0.0%

0.01

◆観点「知識・技能」 ◆領域「データの活用」

「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる。」問題でした。データの特徴や傾向から導いた結論について、表から根拠となる数に着目できるようにすることが大切で、本設問では、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを問うており、ここでは、「春だいこん」「夏だいこん」「秋冬だいこん」の出荷量について、都道府県ごとに、出荷量の大小を比較することが必要でしたが、本校の児童の82.2%が正答していました。

◆観点「知識・技能」 ◆領域「数と計算」

「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる。」問題でした。小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることがポイントとなる問題でした。本設問では、小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかを問われています。ここでは、 $0.4 + 0.05$ について、0.4 は0.01の40個分、0.05は0.01の5個分とみること、0.01を共通する単位として捉えることができているならば正答となり、本校児童の84.4%が答えられていました。

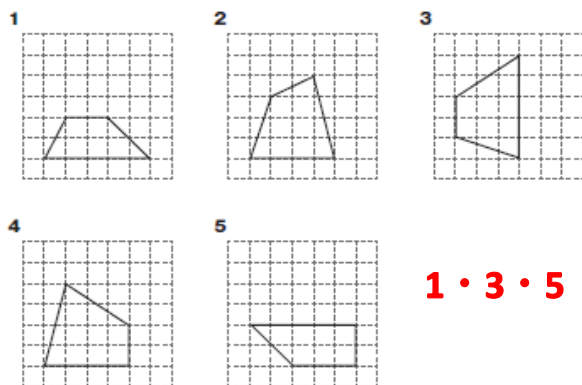
○全国の平均正答率を下回った問題

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	問題の趣旨
	高台小	全国		
2 (2)	37.8	50.2	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる

(2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。

下の 1 から 5 までの中で、台形はどれですか。

3つ選んで、その番号を書きましょう。



◆観点「知識・技能」 ◆領域「図形」

「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。」問題でした。辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形を弁別できるようにすることがポイントとなる問題です。本設問では、台形の意味や性質について理解しているかどうかが問われています。ここでは、方眼上の四角形を台形と捉えるために、向かい合った一組の辺が平行であることに着目することが必要でしたが、本校児童の平均正答率が37.8%ということから、向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形であると理解している児童が少なかったと考えられます。

無解答率
0.0%

③指導改善に向けて

本校の児童は、図形領域の「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。」「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。」に課題がみられました。そこで、以下のような指導を全校で発達段階に応じ、組織的に取り組んでいきます。

1.図形指導の改善策：指導内容とねらいの統合

定義と異形の徹底比較による本質理解

台形などの図形の定義（例：一組の平行な辺）を、その図形ではない「異形」と徹底的に比較させ、定義の条件が崩れると図形ではなくなることを理解させることで、定義の本質と既習図形との関係性を明確にします。

2.操作・構成を通じた感覚的理解の強化

マグネットや紙片を用いて、台形を切り分けたり移動・組み合わせたりする操作活動を重視し、台形が既習の図形に帰着する過程を体験的・論理的に理解させることで、面積公式が成り立つ理由を理解させます。

3.言葉と現実への接続による応用力育成

学習内容を「台形を知らない人に説明する」課題や、実際の台形を実測して求める活動を取り入れ、知識を自分の言葉で再構成させ、日常生活や問題解決に図形の知識を応用力（思考力・表現力）を育成します。

4.ICTを活用した指導

タブレットやソフトを活用し、児童が図形を「動かして」「切り取って」「理解する」などの指導を強化します。

3 理科の結果

全国の平均正答率と比較して相当高い（上位）結果でした。

①正答数の分布

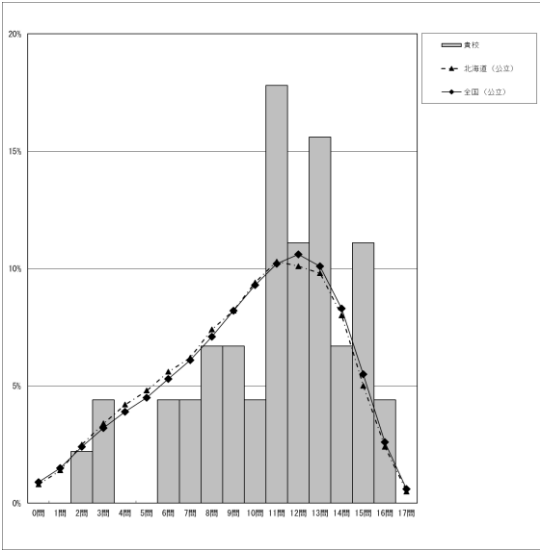
本校の分布は、全国・北海道の平均と比べて高得点側に大きく偏った、非常に特徴的な形を示しています。全体的に、11問以降の中間から高位層が極めて厚い一方で、低位層は平均並みかやや少ない程度で安定しています。

0問～4問の層は、全国・北海道の平均とほぼ同じ割合で分布しています。特に目立って低い層は見られず、基礎学力の定着が不十分な層の割合は、平均並みで抑えられています。

中間～高位層（8問～15問）の状況この層に本校の強みが集中しています。11問の層が約18%と、全国・北海道のピーク（約10%）を大幅に上回る最大の山となっています。

13問の層も約15.5%と非常に高く、12問・14問の層も全国・北海道の平均を明確に上回っています。

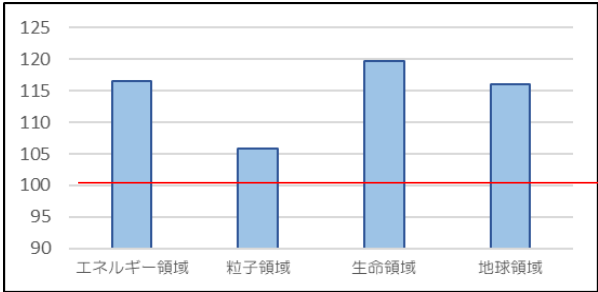
この結果は、平均的な学力を持つ児童がしっかりと力をつけ、中間から高得点の層を厚くしていることを示しています。16問の層は約4.5%で、全国・北海道の平均（約3%）をやや上回っています。最高得点層においても、平均を上回る結果を出しており、全体の学力水準が非常に高いと言えます。



②学習指導要領の領域別の平均正答率の結果

領 域	全国平均との比較
エネルギー領域	相当高い
粒子領域	やや高い
生命領域	相当高い
地球領域	相当高い

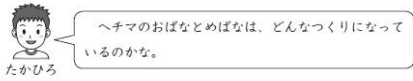
全国平均を100とした場合の本校の正答率



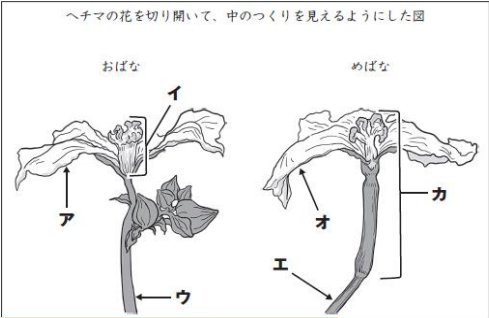
○全国の平均正答率を上回った問題

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	問題の趣旨
	高台小	全国		
3 (1)	88.9	70.7	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる
4 (2) イウ	82.2	64.2	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる

3 たかひろさんとてるみさんは、ヘチマの花のつくりについて調べています。



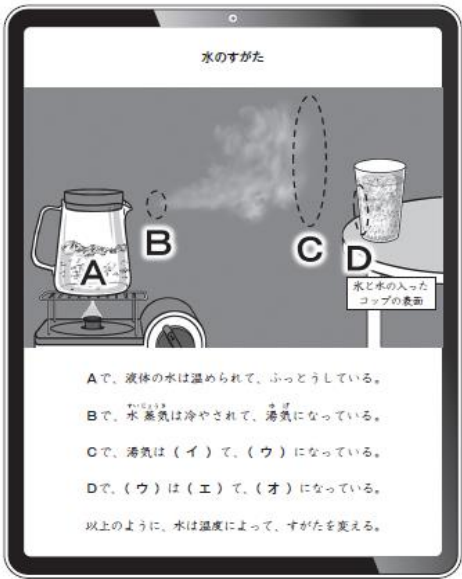
(1) ヘチマのおしべとめしべを下の図の ア から カ の中からそれぞれ1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、「花粉がめしべの先につく」ことを表すことばを書きましょう。



おしべ イ めしべ カ
「花粉がめしべの先につく」

無解答率
0.0%

ひろみさんたちは、水のすがたに関する学習をまとめています。



イ 1 (蒸発し)
ウ 4 (水蒸気)

無解答率
0.0%

◆観点 「知識・技能」 ◆領域 「生命・地球」

「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる。」問題でした。この問題では、ヘチマの花のおしべとめしべ、受粉についての知識が身に付いているかどうかを問われています。本設問にあるように、知識を他の学習や生活の場面でも活用できる程度に理解することが大切です。そのため、観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりしながら、知識が身に付くように意識して授業を改善することが大切です。本校の児童の平均正答率は88.9%だったことから、知識が身に付いていることがわかります。

◆観点 「知識・技能」 ◆領域 「物質・エネルギー」「生命・地球」

「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。」問題でした。この問題では、水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に表現できるかどうかを問うものです。ここでは、水の蒸発や結露に関係する自然の事物・現象について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することが求められます。そのため、自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることの重要性について意識することが大切であり、本校の児童は身に付いているものと考えられます。

○全国の平均正答率を下回った問題

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	問題の趣旨
	高台小	全国		
4 (3) ク	51.1	65.6	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる

ひろみさんとゆういちさんは、気温に関するニュースを知り、話しています。

日本の1年間の平均気温が、過去100年間で約1℃高くなったことをニュースで知りました。

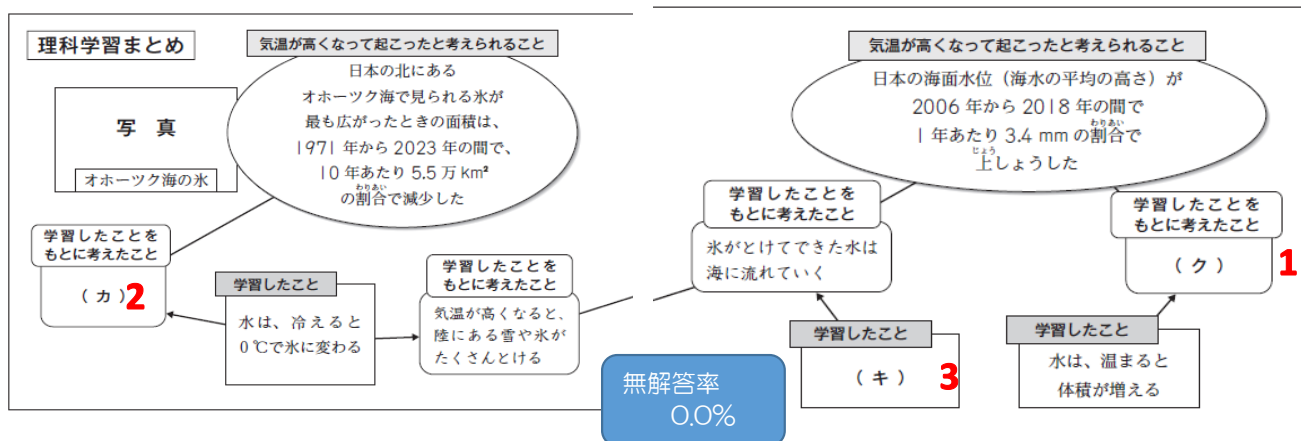


ひろみ



ゆういち

「気温が高くなって起こったと考えられること」について、ひろみさんと思い出したり考えたりしたことを、「学習したこと」や「学習したことをもとに考えたこと」に分け、まとめました。



(3) 図の(カ)から(ク)の中には「学習したこと」や「学習したことをもとに考えたこと」が入ります。(カ)から(ク)の中にあてはまるものを、右の1から4の中からそれぞれ1つずつ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 海水は、温まると水と同じように体積が増える
- 2 海の氷は、平均気温が高くなるとできにくくなる
- 3 水は、高い場所から低い場所へと流れる
- 4 水は、氷になるとき体積が増える

◆観点 「思考・判断・表現」 ◆領域 「物質・エネルギー」

「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題でした。水の温まり方について、解決の方法を発想しながら問題を解決できるか、水に関する知識を概念的に理解しているかどうかをみるもので、オホーツク海の氷と気温の変動との関係を、「理科で学習したこと」に関連付けて、「学習したことをもとに考えたこと」について思考して表現できるかどうかを問うものでした。ここでは、学習した内容や児童の生活体験などを基に根拠のある予想や仮説を発想して、思考し判断することが求められます。そのため、習得した知識を他の学習や生活に関連付けて、知識を身に付けることの重要性を意識することが大切なのですが、平均正答率から本校児童に課題がみられます。

③指導改善に向けて

本校の児童は、多くの設問で全国・北海道の公立校平均を上回っており、理科に関する学力は全体的に高い水準にあると評価できます。特に基礎的な知識を問う設問で高い正答率を示しています。

正答率が低い、または全国並みの問題としては、

電気の通り道の工夫で正答率は全国を上回っているものの、理解が不十分な児童が多いため、回路や導線の役割に関する思考・考察の定着に課題が残ります。植物の葉の養分に関する実験の結論で実験結果から結論を導く思考力や、条件統制・結果の解釈に関する論理的な判断力が全国並みに留まっており、考察力・表現力の育成に課題があります。水の状態変化のまとめは全国平均を下回っている唯一の項目です。知識の定着は高いにもかかわらず、現象の全体像や仕組みをまとめて表現する力（思考力、表現力）に課題があることが示唆されます。

改善策としては、

- 1.電気回路モデルの操作や、「なぜつかないか」を問う発問を増やし、原理に基づいた問題解決的な思考と考察を徹底する。
- 2.実験結果の記録に加え、「実験から何がわかったか？」という結論と根拠を記述する振り返りの時間を確保する。
- 3.現象の全体像を捉える概念図（マッピング）を作成し、学んだことを整理する。
- 4.「仕組みを人に分かりやすく伝える」活動を通し、知識を統合して表現する力を育成する。

など、主体的・対話的で深い学びの学習を全校で組織的に取り組み、思考力・判断力・表現力を働かせて未知の領域の問題解決を進める力を育てていきます。